

しりべしツーリズムサポートニュース



Vol.114

平成 29 年 11 月

29年度「しりべしiシステム事業スタッフ研修会」報告



平成16年の「しりべしiシステム事業運営部会」から平成19年10月STSが誕生し、その年の11月には第1回しりべしiシステム事業スタッフ研修会としてニセコにて宿泊研修会が開催されました。代表理事であった真田氏も参加し、皆さんと交流親睦の楽しい二日間であった記憶は未だに残っています。さて、偶然にも10年目という節目的な開催となった“宿泊研修会”後志観光連盟さんのしりべし塾合宿とのジョイントとなりました。



10月26日13時から「しりべし塾2nd

Season」広域観光セミナーとして地域活性プランニング代表取締役 藤崎氏による「ロケツーリズム

を活用した効果的な地域プロモーション」講演。“ロケツーリズム”での考え方、“ご当地グルメ”による地域活性。「地域の人を味方に」「コツコツは大事だけれど知らせないと」と価値、契約とシビアに考え、住民への還元へつなげる思考を持って！という地域活性プランニングの基となる講演でした。続いてSTSメニュー（その1）としてiネットのアクセス状況報告。総アクセス 174,493。



Web ページ直閲覧より FB での閲覧、広がりが大きく 29 年 9 月を比較しても web ページ 14,261 に対し、FB では 22,550。投稿数は小樽 207 を筆頭に真狩 89、岩内 39 となっている。アクセス数では単独記事として古平の「平成 29 年度琴平神社例大祭」2,305、岩内「いわない怒涛まつり」1,419、蘭越「新見温泉再開しました！」1,419 と地域らしい話題記事に高いアクセス傾向が見られました。続いて、i ネットリニューアル (Vol.4) のこだわり→“マルチデバイス対応”閲覧端末に合わせた最適、快適表示に加え、個人、団体の SNS を使用した地域情報が濃い、面白い~なのでそれら SNS との連携を試みてみたいなど方向と検討をお伝えしました。続いて施設所在地インフォに役立つ、カーナビ

入力「マップコードの活用」についてもお知らせ。観光農園や施設所在地をあらかじめマップコード取得しておくインフォに役立つのでは？の提案です。QR コード同様、日本で開発されたものらしい。地図会社 Mapion(マピオン)のサイトで作成、取得でき、様々な印刷物や HP に掲載も可能です。



↑(道の駅のマップコード7桁の数字)振興局講堂でのメニューを終え、バスにて第2会場となる真狩・交流プラザに移動し、STSメニュー（その2）観光マーケティング、観光メニュー開発に携わっている JTB 北海道、中川氏により「インバウンド動向と求めているもの」を



テーマーに講演頂きました。北海道を訪れる外国人観光客の目標修正などされているが、テレビ紹介や映画の影響もあってアジアの方が9割。今後の課題は消費単価を上げ経済への波及効果が必要。まだ北海道を知らない消費単価が高く、滞在日数が長い欧米人への観光戦略が重要である。欧米五か国（米、英、仏、独、伊）をターゲットに270万人を目指す。道外、アジア、欧米と考えた場合、それぞれ向けの北海道の魅力の伝え方切り口を変えていくという意識が必要である。欧米人が羅臼で感動したのは「漁師と野生動物の共生」「ヒグマを神として崇めるアイヌ文化」「至近距離で見られる野生動物」であった。

関西、成田、羽田空港で欧米五か国（米、英、仏、独、伊）の方々にアンケートを実施した結果、ダントツ No.1は「雪見露天風呂」理由は雪を見ながら、自然と一体感を楽しむという日本人独特の精神や地中活動を感じるライブ感だったという。旅行環境事業者ツアーに参加した欧米人から1番感動したのは「アイヌのおばあちゃんからのアイヌ文化の説明、地域素材を使ったアイヌ料理を食し、ムックリの演奏を聴き、話を聞く。世界中でここでしかできない体験だった」と絶賛。観光資源の伝え方として、現状は施設、体験紹介でとどまっている。どんな経験が出来て、どんな価値が得られるのか（体験を目的としない）、まつわる話や文化、価値観を含めたストーリーと共に紹介することが重要である。情報発信として、日本の観光写真には人が写っていないものが多いが人を入れて撮る方が自己投影しやすく、スケール感や面白さが伝わる。そして具体的な受入れ態勢の説明が重要であるとの講演内容であった。続いて商大マジプロの地域活性化プロジェクト活動の説明と神恵内村での取組みを紹介。



26日のメニューが全て終了したところで、真狩といえば「いちふじ」さんの「ハーブ豚」ということでハーブ豚三昧なお料理での懇親会。しゃぶしゃぶ、とんかつ、スペアリブ。宿泊コテージでは二次会。翌日は朝食を7時に済ませ真狩村・公民館へバス移動とまさに“合宿”。「地域映像制作WS」ではマーベリック・クリエイティブ・ワークス社が担当。事前に集めた地域



紹介映像をプレビュー、ディスカッション、検証など行い、撮影テクニックやポイントの座学を学んだのち、真狩村河川公園にて実写（ここでは何に拘って写すべきかを学んでいるので、テーマが見つけやすかった）公民館に戻り、スマホアプリを使い簡単に編集、アップを体感した29年度の宿泊研修会はしりべし塾合宿のメニューもあって、精神スタンス、インバウンド観光を意識した

伝え方、発信の仕方と3つのカテゴリーの有意義な内容であったと思う。しりべし塾広域セミナー参加72名、STS i ネットリニューアル参加55名、懇親会参加52名、合宿42名、映像参加49名。とりまとめ頂いた後観連事務局、真狩内で点在する会場調整に準備奔走頂いた役場、観光協会に多大なご協力とご迷惑を掛けながらの開催であった。参加センタースタッフからは日常業務の大変さ、情報発信について、連携訴求など、宿泊だからこその時間を気にしないリラックス感から現場ゆえの貴重なお話を伺うことが出来た。このような機会でもないと地域、現場を常に気にかけている状態から離れられなかった。という話を聞くと慰労効果の役目も果たせたのかなと思う。